

十月三十日 〇九〇

軍司令官

大司馬 謀 志

0947

至急

29 15 45

軍 参 謀 長

29 16 10

(20)

井 邑

護朝参電第一三七號

朝参電第四六五號返

榴彈約一三、八〇噸噸合ニアリ

終

0948

緊急 29日16時10分

20時0分 第二組

### 軍參謀長

釜山

米第4師団に於て日本軍第二次軍隊輸送  
計畫之左、如ク決定セリ付報告ス

一、武高參謀連絡ニ依リ、二列車、部隊ハ一列車ニ

依リ、二月一日出發 二日釜山到着ス (三五六三列車)

二、第六列車、部隊ハ一列車ニ依リ、二月一日出發 二日

釜山到着ス (三五三三列車)

三、第三、四列車、部隊ハ一列車ニ依リ、二日出發 三日

三日釜山到着ス (三五六六列車)

四、七列車、部隊ハ一列車ニ依リ、二日出發 三日釜山到

0949

著ス(三五〇三列車)

五、第五、八列車、部隊ハ一列車、三日去、登、四日

釜山到着ス(三五二六列車)

六、船舶輸送ハ部隊釜山到着ト共ニ直チニ乗船セ

云

通電先 太田、京城

終

0950

至急

二十三日

軍參謀長

比谷參電第五〇八號

十月二十九日乘船セシ人員左ノ如シ

將校 一四五名

下士官 (非士官を含む) 六七七名

兵 四七八三名

計 五六一四名

看  
卅

阻

0951

至急 29日18時30分

29日20時

(25)

第二組

大田連絡班長

護朝參電第一四〇號

貴地停車場ニ滞留シテ護朝部隊其

ダイクニ傳ハラレ度

護朝 テイメイノ要旨

一、第一五〇師団連絡班長ハ將校ノ指揮スル

約三〇〇名ヲ金山準頭勤務隊要員トシテ

歩兵第四六四聯隊長ノ指揮下ニ入ラシメラル

0952

二其ノタイクハ歩兵第四三一聯隊ヨリ約一五〇名  
ヲ選定シ釜山準頭勤務隊トナリ同地步兵  
第四六四聯隊長、指揮下ニ入り爾余ハ内地  
ニ帰還セシムベシ。  
釜山到着後早川參謀ト連絡スベシ

日 高 參 謀

終

至急 29日16時0分

30日8時0分

第2組

軍参謀長

幕水

幕要連電第53號

一、連絡將校川波少尉以下四名、本日貴部ニ出張

セム

二、本日米軍より正式引継書ヲ受領ス

三、幕水ニ於ケル警備、引継ハ明日ヨリ九ヨリ各實施

スルニテ同日正午以降連絡班ヲ閉鎖シ

全負 順天ニ向テテテ

幕水要幕連絡班長

終

0954



緊急 10月29日 20時10分

10月30日 7時20分

(26)

第二組

0955

軍医部長

裡里

一六〇師連電第三三號

当師団、衛生材料引繼ハ三日裡里江景、分終了

レ舒川分未完了ナルモ速カニ引繼目錄調整上十月

二日迄ニ到着スル如ク発送スルニ付了承セラレ度

終

至急

29 17 10

軍參謀長

29 17 50

(20)

京城

久電第二一五號

休暇軍人同家族本二十九日出發狀況左ノ如ク

第一列車一三三。發軍人六九四名 六才以上一九五九名

六才未満六二八名 計三二一人一名 患者二〇名

夕ニ送患者二名 第二列車一六〇名 發軍人六六八名

六才以上一七八名 六才未満五一九名 計二九六七名

患者三三名内夕ニ送一一名

輸送

終

0956

146

至急

29 13 50

29 16 45

(20)

金山

軍 参 謀 長

一、一月二八日乗船セル者左ノ如シ

輸送

興安丸「仙崎」向 六四五八名 德壽丸「博多」向 二七五三名

内軍隊 護朝 四九二 聯隊 八二七名

天弓丸「博多」向 七九八名 龜島丸「博多」向 二六七名  
小金丸「博多」向 一二二五名 雲せ丸「舞鶴」向 一六三四名  
計 一三〇三五名

二、金山 滞留 邦人 三〇〇名

三、参謀長 一向 八德壽丸ニテ 出發セリ

通電先 大田 京城

博多出張所長

0957

副

軍參謀長

三急

海防部

少尉

(18)

第一組

五八軍復員關係上

當出張所勤務

大副

參謀軍管區司令部附ト以後當所ニ勤務

才癸令了度

稿寫出張所長

終

0958

普通 28日印時分

以時分 山田山山 果二組

松本參謀

京成

0959

森電第六號

外交原則十二項目

1. 米國の領土擴張自國本位利益の追及を以て米國の大小  
強弱を如何に對し米國の侵襲の計畫を有する 米國の他國、

平和的目標を以て衝突することを期す事あり。

2. 米國の主權と自治政府の力に依りて奪はれ凡そ人民

の諸島を以て爲るべき復讐の確信あり

3. 互に友國的に在り、如何に部分に於ても其國の人民の  
自由意志に依りて米國の領土編入を望まざらん事あり。

4. 米國ハ自治政府ヲ準備ス凡ク人民ニ對シテ自由ノ選擇  
 ニ依リテ自ラ形態ヲ政府ヲ許スベキニシテ  
 5. 撤兵戰時ニ於テハ聯合國ノ合同且協力ニ行動ニ依リテ  
 敗國數國ガ自由選擇ニ基キ平和的ニ民主主義政府  
 ヲ建設スニシテ援助スル之ニヨリテ(マニラ)及軍事的侵  
 略ノ存在ニ對シテ世界ノ實施スル標榜カスル  
 6. 米國ハ他國ノ力ニ調整セシテ未來如何ニ政府ヲ承  
 認シテ場合ニ依リテ斯レ政府ノ成立ヲ阻止シ得  
 事ニヨリテ米國ハ此ノ權ヲ實際政府ヲ承認スル  
 7. 米國ハ全世界ノ國家ガ海洋ノ自由ヲ持テ國境  
 並ニ一國以上ニ亘リテ流レル河川及水路ニ關シテ平等ノ  
 權利ヲ保有スルモト信スル

0960

一三一

5. 米國が凡そ國家が世界ノ通商及原料ニ關シテ平等條件ヲ保つべきベキモノト信スル

8. 米國ハ西半球以外ノ干渉ヲ受クルニトシテフランスノ共通問題

解決ニ善善濟トシテ協力シテシバナラズト信スル

10. 米國ハ大小ノ國ハ全國家が相互ニ完全ニ經濟的協

力ヲ實現スルニトシテ生活條件向上ニ取リ又自由ヲ確立

スル上ニ極力肝要ト信スル

11. 米國ハ世界ノ平和愛好合地域ヲ通ジテ言論及宗教

ノ自由ヲ速進スル爲メ努力ヲ續クベシ

12. 米國ハ國及間ノ平和ヲ維持スル爲メニ世界ノ平和愛好

國が凡そ結合シテ平和保証ノ爲メ必要ナル協同ヲ兵力ヲ

0961

有るに意圖ヲ持ツテ構成シテ聯合國機構ガ必要ナルト信  
スル

中國國防最高會議決議書所ニハ日本ヲ十五年間毎年  
五六兆ノ金塊ヲ聯合國ニ支拂ハシ條項ヲ含ムルニ降参  
意案ノ内是レノ通

1. 日本ハ聯合國ニ支拂ハシ今後十五年間寸産五六兆ノ  
金ヲ産出スベシ 日本ハ日本ノ國ニ私ニ銀行ノ準備金  
外國為替日及中國為略奪シテ銀ヲ引渡スベシ

2. 金鑛業施設ヲ聯合國ニ引渡スベシ 日本ハ今後十五年  
間 銅 鉛 亜鉛 マルミウム 及 硫黄ヲ含ム金鑛生産ヲ  
停止スベシ

3. 日本ハ良好ノ條件ニ於テ金鑛業ヲ直ニ聯合國ニ引  
渡スベシ

0962



4. 今後十五年間日本ハ石炭産額ハ八〇%ヲ引渡スベシ

5. 日本ハ一〇〇噸以上ノ船舶ヲ聯合國ニ引渡ス

ヘキテアル 又大型伐帆船、内燃機附漢船、雜船

工業ノ引渡スベシ 日本ノ全通信施設ノ引渡ヲ要求

スル

6. 日本ハ木材生産額ヲ倍加シ其ノ五〇%ヲ聯合國ニ引渡

スベシ 日本政府ハ二〇萬人ヨリ上ノ奉仕隊ヲ組織シ戰

争ニ依リテ荒瘡ヨシク諸國ノ使用ニ任ズベキテアル

尚 秘書所ニテハ日本ノ聯合國ニ對シテ拂スベキ賠償ハ各

國ニテハ中國ハ優先權ヲ與ハラレバズアル コノ意思見ヲ

示シテ理由トシテハ中國ガ他ノ聯合國ヨリ長ク戦ハシ

テ損害ヲ蒙ラシメ爲ルニテハ聯合國使用國家・中中國

0963

か最モ工業面テ立ニ連シテ本ルカラアルトナリ言ヒテナル

(引揚邦人所有財産ヲ保護管理希望者ハ軍政廳

ハ願書ヲ提出)

米軍政廳ニ於テ引揚邦人ハ財産保護ヲ為其ノ

所有スル不動産(主トシテ高品)不動産ヲ接收管理スルニト

ニシテモ此ノ管理希望者ハ此ノ様ニ形式ニ軍政廳

ハ願書ヲ提出スレバ其ノ取次ヲ日本人世話會

指導機關ニ依頼スルニ同所ヲ取次ニシテニナラザル

願書ノ形式

不動産不動産管理願、本籍住所氏名種類、

不動産(高品)不動産数量管理物件所在、

買値賣値(希望価格)支払付、場合ハ貸賃料

0964

141

管理方法 (賣却不貸付)

右物件 管理相成度 如願申上候

年月日 右願人 米軍政廳

如申

141

0965

至急 11月29日 12時迄 13時/分 (3) 茶二組

軍參謀長

釜山

不電茶三號迄

<sup>寄</sup> 通譯ハ現在埠頭ニ出入ヲ許可セラレテ埠頭ニ

於テ有價証券引上ケノ軍隊ヲ常時五籍名ニテ實

施セラルルニ通譯ヲ有セス虐待ニ付キ出束得ルハ刻ク

附近ヲ一般ノ通譯ヲ増強スル如ク配慮相成度

通電先 大田 京城 釜山 連絡部長

終

0966

軍參謀長

至急

29/10/1

/

15/10/1

(13)

茅二組

麗水

麗水連電茅五二號

刺參電茅四六三號 受領 下

刺參電茅四六三號

軍令令年員 茅一五。師團連終班内地歸途 行

0967

至急 29日12時0分

軍参謀長

14時30分 第二組

裡軍

一六〇師連電第三一號

朝軍参動第三五號ニ関スル現役將校予備役

編入願ハ希望ノ有無ニ拘ラス提出スルキヤ

若シ然ラストモ予備役ヲ希望セザルハ以後如何

取扱ハレルヤ 返

終

0968

至急 10月29日 15時分 解送 (17) 第3組

軍參謀長

博多

済州島部隊 佐世保上陸司令部

天自附之 一號 艦隊 報告 済州島 了 佐世保

輸送

上陸人員 凡記 通り 訂正

二

一、 5月 二、 三四名 五、 八軍 運送班 (通信 第1聯隊、 第1  
特務 勸隊 隊 之四 及 近 病院 築 作 業 飛 行 場 大 隊、  
修 繕 班 等 之 内 患 者 四、 死 者 九、  
一、 三 日 九 七 七 名 (第 九 六 師 團 主 力 ト ス)

福岡出張所長

終

0969

至急 28日17時25分

軍経理部長

29日15時25分

清洲

11分 第2組

岩経電第六九號

朝経電第五一號返

10月10日現在

前渡資金残額一三一八二六一六四六九。

岩経理部長

終  
11/1

0970



三意 29日15時5分 16時5分 16日 第二組

軍參謀長

裡 運

一六〇師連電第四號 再電

米國旗 屏件 松岡中尉 討 元

處刑 鐵 定 七二ヤ

當地米軍 屢之資 閣 又 返

終

0971

至普通

軍參謀長

29.10.30. 29.10.30.

12 第二組

酒 庄島 一 東京 一 杏

船舶電第一九三九号

第一船八策輸送司令部北鮮支那附少尉

未松要了召集ハ内地ニ到着セシヲ以テ八月二十三

日附船舶司令部附ニ命下完令セシニ付ニカレバ

ク處理相成度 北鮮支那ニモ傳ヘラシ度

參謀長

0972

普通

松本参謀

森電第百号其二

ワトローマン大統領リニ七日海軍」記念日ニ方」三ノーク

セトラルハケ」日ニ於テ就任シ来日取重視サレテ滿造ヲ

試テ、同演説ニ於テ大統領ハ外交ノ基礎トナルハキ

十二項目ノ重要問題ヲ説明シテナル。大統領ニ是ヲ

現在行ハレテナル復員計」画カ迄了」シテモ米國

カ尚世界最大海軍」自テアリ又世界最大、

空軍」カヲ有ニス事矣ヲ指摘。其、使命」が

次ノ四点」テ」事」ヲ明カシテ

受付 二九日土時三分

京城

0973

一 米國、陸海空軍、以聯合國ト提携シ  
敗北シ敵國、平和條件、ヲ実行セヌ  
ネバナラナイ

二 悠久平和、和ヲ維持スル爲、米國、以聯合國  
國際安全保障、權、ヲ負トシテ  
軍事、的義務ヲ果サネバナラヌ

三 西洋、球諸國、領土、保衛、及政治的、獨  
立ヲ維持スル爲、米國、以米州諸國ト協力  
シテハナラナイ

四 不安動搖ニ在ル情勢下、以テ米國、以軍事力、  
憲法、以テ、領土、保衛、基本、的、  
使命、ヲ達成スル、力、ヲ、準備、ヲ、持、テ、  
ナラレバ、ナラズ

0974

普通

1月29日 12時迄

13時迄

(4)

某二組

松本参謀

京城

森電第六號 其の一

トールマン大統領ハ右指命ヲ強<sup>調</sup>シ更ニ之レカ征服ノ爲デハ

無ク平和ノ爲メニモデアルト力説シ次ノ如ク述ベラキル

米國ハ其ノ軍事力ヲ專ラ世界平和維持ノ爲メニ<sup>使用</sup>スルモノデ

米國人民ノ对外政策モ又其ノ基礎ヲ茲ニモツラキル。平和

回復后米國トシテハ此ノ外交政策ノ原則ニ立脚シテ飽迄モ

世界他國ト協力スル決意ヲ固メライル。過去多年ニ亘ツテ

0975

相共ニ闘ツテ来タ諸国ノ間ニ現存意見ノ相違カ生ジラレハ  
 レトモ之ガ解消ニ得ナイ程深厚ナ対力デワナイ。問題  
 解決ノためニワ強固ナ團結カ必要トシ崇高ニ建國ニ立脚スル  
 事ニ必要トスル更ニ之レ等ノ原則ヲ適用スルためノ共通ノ立場カ  
 無サズナリ。今日世界ニ於テ最大ノ脅威ニ國際協定ノ  
 信念喪失トスル事デハ次デ大統領演説ノ重莫デア  
 米國が移行政策ノ懸命移リ死ノ如ク述ビタ  
 半國ノ外交政策ハ一朝ニ實施スルワケニワイカ又カモシレナイ  
 ガソレテ事ニハ關係無クモソソ米國ノ政策ヲテアリ断乎  
 其ノ進行ニアラントスルモノデア  
 其ノ爲メニハ多大ノ事實カ  
 必要ト思フガ進行ニ努力シ其ノ結果ヲ期待スルカテハ充分  
 價値ガアル

備  
 1

0976

121

舊約誓書ニ掲ゲルシテ（エテ）一ハハイク 弊則ニ得ク今日ノ  
 全世界ノ達成志トナツキイル。然シ我々ハコノ達成ニ不断ノ  
 努力ヲ傾ケテアラユル方法ヲ以テ一年一年其ノ目標ニ近ヅイテ  
 次ノ如ク報道ニテ後大統領ニ外交原則一二項ヲ次ノ  
 如ク述ベシ

0977